

す。その中で、ちよつとお話申し上げたいと思っておりますのは、先程谷脇校長先生のお話にも、外務省のお話がありました。私も一九八三年に、防衛庁から外務省に出向いたしました。北京の日本大使館で、防衛駐在官、各国で言いますと、いわゆる大使館付武官というような形で勤務いたしました三年間についてお話ししたいと思います。

中国とはどんな国だろう、どのような視点で中国を見たらいのか、そういったことをお話しさせていただけたらどうかなと思います。

最初に中国というのはどんな国なのか、大きい国だなあ、人口が多いなあ、貧しいだろうなあ、そんなようなところが、ま、それから日本と政治体制が違うし、中国共産党というのがある、どうも天下を取っているらしい、それから大体中国の人は個人的にはいいけれども、中国の政府の代表が日本について言うと、いわゆる歴史認識について、日本がしっかりとすると、戦争につ

て日本がもつと反省をしろと、そういつたようなことを言う国だなあというイメージを私は持つています。

そんな中で私共日本から見れば、数千年の歴史、文化が中国から伝わって来た、そういつたようなところで、中国についてはある種の懐かしさ、それから体制の違う大國ということに対する戸惑いを感じながら、中国に向き合っておるといふのが実態であるうというように思っております。数字で見ますと、面積は日本の二六倍位、人口は十倍、GNPで言いますと日本の五分の一、一九九六年ではございまして。ただ、歴史という点から見ますと、まさにいろいろな歴史がある、どこに行つてもいろいろな歴史がある。映画で「ラストエンペラー」といふのがありましたが、その皇帝、溥儀さんの弟さんで溥傑さんという方と親しくなりました。奥様は昔の侯爵の家柄で嵯峨侯爵家からお嫁においでになった浩さんという方ですが、お宅に何度かお

訪いました。丁度今頃(十一月)だったと思いますが、庭で男の人が、棹で紫色の実を取つておりました。「これ何ですか」と聞きましたら、洗つて持つて来てくれて「まあ、ちよつと食べてみなさい」と言うことで食べてみましたら、中がちよつと黄色いような杏のような感じがして、聞いてみますと、ナツメだということです。ナツメというのは私の記憶では、昔、日露戦争の時、旅順の城攻めをしまして、そのこの攻略をしまして時に、乃木大将がロシアの將軍、ステツセルと会見をした、その時にその農家の庭先に一本ナツメの木があつた。「記憶はあのナツメなんです、そのナツメなんですか」「ウン、その通りだよ。あそこの木の実を持つてきて植えたら、この木ができて、その実を今あなたが食べているんだよ」というような話で、歴史の中の一人になったような気が致しました。

また、別の中国の方をご夫妻で我家の夕食にご招待をし

て、その女性の方のご先祖のお話をいろいろ伺つていられると、うちの先祖はヌルハチです、と。ヌルハチというのは学芸高校の時、女性の先生で、世界史を教えて下さつた方がいて、何かその時にヌルハチといふのを、どっかで満州の奥の方にそういう民族がいたといふことを、聞いたことがあつた。余りよくわからないのですが、ま、そのようなお話をすることができました。



そういつた中国の中で、中国の一般の人達は非常にゆつたりとした生活を送っており、朝早く起きて、近くの公園に行きまして、皆さん集まって、大極拳をゆつたりやっております。そして、その近くでは丸い鳥かごに小鳥を入れて、高知で言いますと、昔、メジロを鳴かせるというのがありましたが、ああいう感じで小鳥を飼っている。また、その近くでは、金魚だとか熱帯魚をお互いに物々交換しながら楽しんでる。

私がいた頃の中国では、一般の家庭ではお風呂とトイレがありませんでした。トイレは町内に一つ公衆トイレがありまして、そこへ用足しに行きます。お風呂はせいせいタオルをお湯に濡らして、体を拭く程度。

中国は大陸国、農業国といながらゴビ砂漠や西の方の高原は除いて平野の面積を出し、農村人口で割りますと、高知県の農家の持っている土地の広さとほぼ同じ位です。そういつたところで、私の友

人で、農林省から出向してきておる人がおりまして、中国の農林省はどういつたことを日本に希望してくるかというのと、日本の農業バイオテクノロジーを教えて欲しいというので教えているというのです。中国では水路というよなものが多い使われておりません。高知ではどこに行きましても、水田に水が引かれるような設備がありますが、中国では畑の四方をちよつと深く掘りまして、雨が降るとそこに水が溜まる、そしてその水が少しづつ土壌にしみ込んでいく、そして農作物が生長する、そういつた程度です。用水路を作つて水を引いてくれる方が先なのではないか、そう思うけどなかなかそういつた訳にもいかんと言っております。

今、中国は経済改革、改革開放という事で、スピードを上げなければいけない。いろいろ工場を見学にまいりましたら、新しい機械が入っております。日本から機械を入れて使いますと、今まで十二

人で仕事をしていたところが、三人ですむようになる。そうすると九人得をします。一遍動かしてみます、動かして終わるとまたその上に布を掛けて止めてしまふ、イヤ、これ毎日使わないの？イエ、使つてません。どうして使わないの？使いましたら十二人の内残りの九人が生活できなくなると困るのです。彼らにはやっぱり給料を出してやらないと生活できない、だから機械は非常にいいんですけれど、使わないようにしております。

どういつの意味かといえますとやはり、一つの大きな国有企業がありますと、そこに帰属をしますと、そこには当然それぞれの職場がありまして、その職場の他に生協、幼稚園、それからあるところは高校、大学まで、その企業が持つております。それから、理髪店だとかいろいろ食料を売っている所、日常生活全ての事がその企業内で全部足りてしまふ。従つてその企業に帰属しておりますと、それが大事かといふことが彼らの意識なので



合同2次会は《ねばり》で

す。日本には「親方日の丸」という言葉がありますが、中国語で何というか、いろいろ聞いておきますと、「大鍋飯」直訳すると、大鍋でご飯を炊いたものを皆で分け合つて食べる、すなわち、政府が作った大鍋を皆で分け合つて食べるといったような意味で、まあ、「親方日の丸」といったようなところですか。そういう形でやってきて、改革を急ごう急ごうと言いながら、なかなか急げない国民意識があります。国有企業の大改革をやるう、金融改革をやり、地方省庁の改善をやる、人員を減らせ、これを三年でやる。こうなりますと中国人の「マンマン」(ゆつくりゆつくり)「大鍋飯」という意識からいくと、そんなこと言つたつて我々どうしてくれるのよ、生きていくのに困るじやないということになって、それで結局生活の不安を感じ始める。そうすると、彼らは何をするか、やはり大極拳をしよう、そこから出てくるのがいわゆる「ホーリンコー」という気

功のグループに入つて、この世で十分安心して生きられないのなら、来世において安心できるように、心も豊かにとつた形で「ホーリンコー」が広がっている。ということ、その取締りもまた非常に厳しくなっている。

中国国内におきましては、だいたい五五の民族がおりますが、地域的といえますが、独立的なものを持つておりまして、活動が比較的激しいところが二ヶ所あります。一つはチベット、いわゆるダライ・ラマのところ、それから新疆ウイグル、ここはイスラム関係の影響で、一部イスラム圏から資金だとか武器だとかが入つているのではなからうか。そして、それに対して中国政府はお金を出し、漢民族を沢山移動させ、あるいは軍隊をその地域に駐屯させ、懐柔政策を取りながら、しかし厳しい鎮圧政策を取つております。中国の指導者から見れば、いかにして中国を治めてゆくか、国内が混乱する、民族問題でガタガタするという

ことに対し、国内問題の安定について極めて神経質であります。

そういつた中で中国側が日本をどういつた目で見ておるのか、といつた話を最後に申し上げたいと思います。

中国が日本を見る目というのは、四つあると思います。

一つは三〇四〇〇年の日中間の長い歴史と伝統に基づく文化、東洋における文化を共有してきた、すぐ隣の友好国、隣国だ。

二つめは、先の戦争において、いわゆる中国大陸を鉄砲で荒らした、許せない。従つて、いつまでも軍国主義である、あるいは歴史認識について注目しておかなければいけない。

三つ目は日米安全保障条約によつて、アメリカの同盟国である。中国から見れば邪魔な国、アメリカに抵抗しようとする時、日本は邪魔、かつ日本はすぐ隣にあつてプレッシャーになる。

四つ目は中国から見ると進んだ経済、工業、科学技術力



笑 顔 満 開

役員	役職(期)	氏名(旧姓)	電話番号
役員	支部長(2期)	功夫男 彦子 尚	03-3677-1462
	支部長(3期)	次律明 康美 真	0489-74-3681
役員	支部長(6期)	山川 川 城 由 真	043-257-2614
	支部長(14期)	谷 石 中 筒 戸	03-3558-6120
役員	支部長(14期)	井 田	03-5987-7268
	支部長(17期)	井 田	048-855-6088
幹事	1	三子 夫 子 平 男 子 洋 子 法 裕 天 敬 新 彦 彦 善 司 智 彦 尚 和 康 夫	047-392-6378
	2	尚 篤 律 美 和 明 初	045-314-2877
	3	(筒井)	0489-74-3681
	4	保 窪 川 岸 富 田 川 本 都 本 橋 光 田 田 尾 村 岡 城 田 森 岡 崎 田 地 加 有 浜	027-323-2289
	5	(十万)	0474-57-9288
	6	(松本)	043-257-2614
	7	(藤田)	0422-51-3446
	8		044-822-0257
	8		047-445-0022
	9		0468-75-7653
	9		0422-32-0182
	10		043-462-0945
	11		0424-24-3229
	12		03-3318-4350
	13		03-3694-8598
	14		03-3309-0800
	15		03-3558-6120
	15		03-3397-5619
	16		0482-56-3281
	16		0489-81-7444
17		0471-98-7156	
17		048-855-6088	
18		044-852-5461	
19		0471-86-0102	
20		045-721-5139	
22		0903810-0295	
22		043-251-1701	
23		03-3338-6206	
24			
25			
26			
27			
28			
28		吉 原 健 吾	03-5684-1707
29			
30			
31			
32			
33		高 橋 孝 輔	045-482-1455
34			
35		都 築 弘 典	
36			
37			
38			
39			
40			

同窓会関係東支部役員・幹事名簿

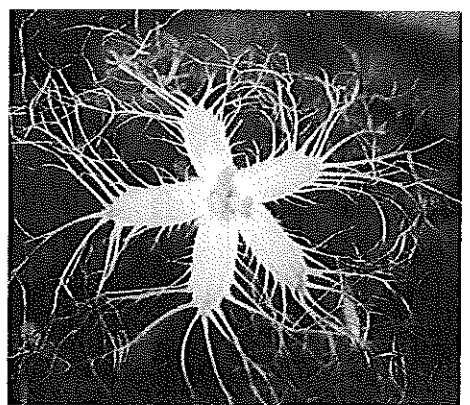
お願い

☆同封の振込み用紙にて、年会費のお振込みにご協力をお願いします。

☆この度西野内さんが「あさかせ」の担当を担って下さることにになりましたが、実働部隊2名といういささか、心細い状態です。どなたか一緒に取材に飛び歩きませんか。取材先をアドバイス下さい。いつそのこと原稿を下さい。

☆同窓生の情報をお寄せ下さい。例えば、今度個展を開催しますとか、舞台に立ちますとか。

☆20期生、21期生、22期生、以降の方、最近の同窓会は期別の実行委員会形式で運営されております。そろそろですよ。よろしくネ。



ひっそりと咲くからすうりの花

同窓会会員各位

平成13年9月30日

同窓会 関東支部
支部長 谷山次功

高知学芸高校同窓会 関東支部 第14回総会のご案内

最近の台風は、風もさることながら大雨の被害が大きいように思われ
ます。高知県西部の大雨、随分被害が出たようですが、皆様のふるさと
は如何でしたか。今年もまた、年に一度の関東支部の同窓会を下記日程で開催いたしま
す。学芸の卒業生で母校で教壇に立ち、後輩のために頑張っておられる先
生方が特別授業、出席の大勢を今年もお願いいたします。今年もまた、お忙しいとは存じますが、
是非ご案内申し上げます。

記

日時： 2001年11月3日(土) 15時～19時

場所： 都市センターホテル
〒102-0093 千代田区平河町2-4-1
☎03-3265-8211 (大代表)
☎03-5216-8808

会費： 当日会費 7000円 (学生1000円)
年会費 2000円 (平成13年度分)

式次第

開場 (受け付け開始～)	14:30～
総会 (会計報告, 役員改選)	15:00～16:00
特別授業 (砂田紳一先生 地理)	16:00～17:00
懇親会 (立食パーティー) (豪華景品あり)	17:00～19:00
	(だいたいの目安です)

※同封の葉書にて10月20日(土)迄にご出欠をご連絡下さい。
※ご返信の住所は郵便物の届く範囲をご記入下さい。